

●第38回秋季 野球大会

優勝は関電工、参加チーム33社

恒例の秋季野球大会（第38回）は、9月28日から10月1日までの4日間神宮外苑軟式野球場において行われ、関電工チームが春の勝者近電工チームを1対0で抑え、昨秋につづき2年連続優勝を果たした。

斎藤会長の、選手諸君への激励の言葉と始球式で開幕された今大会は、参加申込みが33チームあり（残念ながら2チームは一回戦で棄権したが）、野球大会は徐々に会員各社に浸透しているようだ。選手達も一投一打にユーモラスな野次を飛ばすなど、スポーツの秋を楽しんでいた。しかし、大会3日目の9月30日は、あいにくの空模様。降りしきる雨の中を準決勝を含め6試合が行われるなど、大会関係者が選手の健闘を讃える一幕もあり、全日程をとどこおりなく終えた。

決勝で顔を合わせた関電工チーム、近電工チームは、もうオナジミ。両チームとも順当？に勝ち進み、10月1日の決勝戦に臨んだが、勝利の女神の微笑は、今回は関電工におくられたようだ。

試合は3回まで両チームとも無得点。先取点をどちらが取るかに興味が絞られたが、4回ウラ、関電工は2死から5番のライト黒田寿雄選手がレフト前に痛烈なライナーのヒットを放った。しかし野手がバウンド

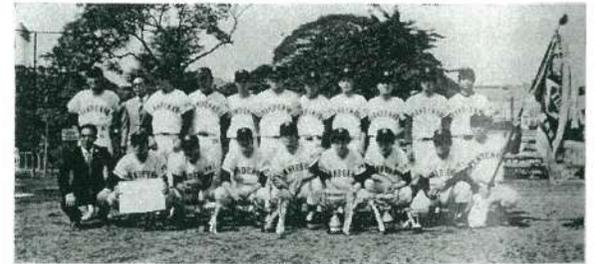
を誤りこれを後逸、結局ホームランとしてしまった。その後、両チームともヒットでランナーを出し得点のチャンスを作ったが後続なく、この1点が決勝点となった。近電工は押しぎみに試合を進め、得点圏にランナーを送ったが、好打が野手の正面を衝くという不運に見舞われ、措しくも1点差で準優勝。

なお個人賞には、最優秀選手賞・緒方輝優（関電工）敢闘賞・奥村幹治（近電工）の両君が選ばれ、表彰式でそれぞれ記念品が贈られた。



◀ゆっくりホームインする黒田選手

▼春の勝者近電工から優勝旗をもぎとった関電工チーム



組み合わせおよび得点表

